

○ 小学校社会 第6学年 ①

「古墳時代」

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領との関連	評価の観点		
			関意	思判表	知技理
(1)	資料2から必要な情報を読み取り、「1世紀は100年である」という既習の知識と関連付けて解答を導き出す問題である。	内容(1)我が国の歴史ーアのうち、「古墳」についての活用問題である。		◎	○
(2)	大きな古墳を築くには、多くの人々を指図できる(労働力として動員できる)力が必要であったことを理解し、それを説明することができる力をみる問題である。	小学校の歴史学習では、国土に残る遺跡や文化財を調べたり、年表や文章資料などの資料を活用したりして、人物の願いや働き、文化遺産の意味などを考え、我が国の歴史に対する興味・関心や愛情を育てることが大切である。	◎		○
(3)	古墳に埋葬された豪族の力の大きさは、古墳の大きさだけでなく、古墳の石室の内部の様子や出土品からもわかることを理解しており、それを説明することができる力をみる問題である。	宮崎県の素材と関連させながら、古墳の規模、その出土品、古墳の広がりなどを取り上げて調べ、各地に大きな力をもつ豪族が出現したことを理解させることがねらいとされる。	◎		○
(4)	古墳の大きさと豪族の力の大きさの相関関係についての知識と資料4から読み取れる情報とを関連付けながら、身近な地域に存在したであろう豪族の力関係の推移について推測する(仮説を設定する)力をみる問題である。		◎		○